

平成31年度「狛江市学習状況調査」の結果 及び 平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果（中学校）

調査実施日 平成31年4月12日（金） **調査の目的**
 ◇ 年度当初に生徒の学習状況を把握し、生徒の学力を把握・分析する。
 ◇ 分析結果を基に日々の授業改善を行い、生徒の学力向上に資する。

調査対象、実施教科等

調査対象	実施教科	調査範囲	調査実施時間	受検者数
中学校	第1学年	国語、数学	45分間、配布と回収を含め1単位時間(50分)を充てる。	419人
	第2学年	国語、数学、英語		372人
	第3学年	国語、数学、英語		430人

「狛江市学習状況調査」第1学年の結果（大領域別集計）

第1学年	部	内容	正答率	全国正答率	全国比	全国正答率との比較
国語	1	話すこと・聞くこと	89.5	85.3	105	
	2	書くこと	56.9	48.8	117	
	3	読むこと	63.1	56.2	112	
	4	伝統的な言語文化と国語の特質	62.0	60.0	103	
数学	1	数と式	64.2	61.3	105	
	2	図形	61.0	55.3	110	
	3	関数	59.4	55.4	107	
	4	資料の活用	52.4	47.1	111	

昨年度同様、第1学年、第2学年共に、全教科・全内容で正答率は全国平均を上回っており概ね良好な結果と言えます。特に第2学年の数学・英語は、いずれの内容も大幅に全国平均を上回っています。

「狛江市学習状況調査」第2学年の結果（大領域別集計）

第2学年	部	内容	正答率	全国正答率	全国比	全国正答率との比較
国語	1	話すこと・聞くこと	73.9	67.9	109	
	2	書くこと	62.1	56.9	109	
	3	読むこと	42.3	38.0	111	
	4	伝統的な言語文化と国語の特質	47.8	43.3	110	
数学	1	数と式	58.4	49.1	119	
	2	図形	61.1	51.3	119	
	3	関数	51.1	45.3	113	
	4	資料の活用	52.0	40.0	130	
英語	1	聞くこと	83.5	76.8	109	
	2	話すこと	74.6	64.4	116	
	3	読むこと	60.1	52.7	114	
	4	書くこと	62.2	52.2	119	

全教科・全内容で正答率は全国平均の同等か上回っており概ね良好な結果と言えます。

国語については、特に「読むこと」の中領域「説明的な文章を読むこと」については全国平均を大きく上回りました。一方、「話すこと・聞くこと」の中領域「論理的な構成を考え話すこと」については、全国平均を下回りました。

数学については、「資料の活用」が全国平均を大きく上回る一方、「関数」の「1次関数の利用」に関する問題の正答率は全国平均を下回りました。

英語については、いずれの内容も全国平均を大きく上回っています。特に、「聞くこと」「書くこと」については、正答率が全国平均を10%以上、上回っており、学習内容がよく定着していることが分かります。

「狛江市学習状況調査」第3学年の結果（大領域別集計）

第3学年	部	内容	正答率	全国正答率	全国比	全国正答率との比較
国語	1	話すこと・聞くこと	68.3	66.7	102	
	2	書くこと	65.4	62.3	105	
	3	読むこと	40.2	36.2	111	
	4	伝統的な言語文化と国語の特質	54.5	50.8	107	
数学	1	数と式	55.3	51.3	108	
	2	図形	60.1	57.2	105	
	3	関数	43.2	42.0	103	
	4	資料の活用	51.4	42.5	121	
英語	1	聞くこと	71.1	59.5	119	
	2	話すこと	65.3	60.6	108	
	3	読むこと	74.6	66.9	112	
	4	書くこと	62.4	52.0	120	

「読むこと」について、「狛江市学習状況調査」では英文に対し、ある場面や資料についての問題に日本語の文を選択する形式であり、「全国学力・学習状況調査」は英文を選択する課題が多く、英語を読んで情報の詳細を理解できるようにするため指導が必要であると考察されます。

調査実施日 平成31年4月18日（木） **調査の目的**
 ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ◇ 取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ◇ 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

調査対象、実施教科等

調査対象	実施教科	調査範囲	調査実施時間	受検者数
中学校	第3学年	国語、数学、英語	調査する学年の前学年までに含まれる指導事項 50分間（準備・回収含めない）	551人

昨年度の調査は、国語及数学の主として「知識」に関する問題（A問題）は合わせて1単位時間、国語及び数学の主として「活用」に関する問題（B問題）はそれぞれ1単位時間として実施しました。今年度の調査では、従来のA問題とB問題を統合し、基本的な事項から問題解決までを一体的に問う形式となりました。また中学校では初めて「英語」を実施しました。「読むこと」「書くこと」「聞くこと」を筆記で実施し、「話すこと」は学校のコンピューターに音声を入力する方式で行われました。出題内容は、次のとおりです。
 ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

「全国学力・学習状況調査」第3学年の結果

国語	平均正答率(%)				
	狛江市	東京都(公立)	全国(公立)	都比	全国比
全体	75	74	72.8	1.0	2.2
話すこと・聞くこと	71.9	72.2	70.2	-0.3	1.7
書くこと	83.0	83.0	82.6	0.0	0.4
読むこと	76.5	74.3	72.2	2.2	4.3
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.8	69.6	67.7	2.2	4.1

全体として、東京都の平均を1%上回り、全国の平均を2.2%上回りました。特に「読むこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、東京都の平均を2%以上、全国の平均を4%以上、上回りました。一方、「話すこと・聞くこと」では東京都の平均をわずかに下回りました。

「狛江市学習状況調査」、「全国学力・学習状況調査」いずれにおいても「話すこと・聞くこと」に課題があり、「相手にとって分かりやすく話すこと」に焦点を当てた指導が必要であると考察されます。

数学	平均正答率(%)				
	狛江市	東京都(公立)	全国(公立)	都比	全国比
全体	60	62	59.8	-2.0	0.2
数と式	63.1	65.7	63.8	-2.6	-0.7
図形	74.5	75.0	72.4	-0.5	2.1
関数	37.7	42.1	40.8	-4.4	-3.1
資料の活用	57.9	57.8	56.3	0.1	1.6

全体として、東京都の平均を下回りましたが、全国の平均を0.2%上回りました。「資料の活用」については、東京都及び全国の平均を上回りました。一方、「関数」にはついては、東京都の平均を4.4%、全国の平均を3.1%下回りました。

「狛江市学習状況調査」、「全国学力・学習状況調査」いずれにおいても「関数」、特に「一次関数の利用」に課題があり、活用を図る課題への取組を充実させる必要があると考察されます。

英語	平均正答率(%)				
	狛江市	東京都(公立)	全国(公立)	都比	全国比
全体	59	59	56.0	0.0	3.0
聞くこと	71.0	71.1	67.9	-0.1	3.1
話すこと	正式なデータなし		30.8		
読むこと	56.9	59.3	55.6	-2.4	1.3
書くこと	50.5	49.5	45.8	1.0	4.7

全体として、東京都の平均と同等、全国の平均を3%上回りました。「書くこと」については、東京都の平均を1%、全国の平均を4.7%上回りました。「話すこと」については、市全体の正式なデータはありませんが、各学校のデータを基に、全校平均を上回っていることが分かりました。

「読むこと」について、「狛江市学習状況調査」では英文に対し、ある場面や資料についての問題に日本語の文を選択する形式であり、「全国学力・学習状況調査」は英文を選択する課題が多く、英語を読んで情報の詳細を理解できるようにするため指導が必要であると考察されます。